

# 「一生 住みたくなる 仙台」

マニフェスト

## ハードよりハート 何が大事!?

1. **夢**が見つかる 仙台（教育・文化）
2. **子供の声**があふれる 仙台（子育て支援・地域防犯・治安）
3. **生活者・消費者**の味方 仙台（健全な自由競争・市役所改革）
4. **働く場所**がある 仙台（経済）
5. **優しさ**の手をさしのべよう 仙台（福祉・医療）
6. **備えて**安心 仙台（防災・危機管理）
7. **蛍** 棲む 仙台（環境）

## プラス

地下鉄・東西線について

## —— はじめに ——

現在、仙台市の財政状況は、

- ① 市税収入の減少傾向が続いています。
- ② 市債償還の重さも増しています。
- ③ 今年度で財政調整基金（市の貯金）は取り崩した結果、底をついてしまいました。

今後の予算編成は、小手先の対処策で解決できる状態ではありません。歳入の右肩下がりを前提に、現実を直視した政策選択が求められます。

一生住みたくなる仙台のマニフェストは、ハードよりもハートを大切に「何が大事か」政策に優先順位をつけて「スクラップ&ビルド」の具体策を示します。あわせて、100年先に誇れる仙台とするために強い信念と実行する意志を込めました。

一生 住みたくなる 仙台

## 夢が見つかる 仙台（教育・文化）

好きな事、やりたい事、夢が見つかる世界一の教育都市をめざします。

仙台版寺子屋	選択制による土曜日の活用。地域人材と市内大学との連携を生かし、英語・国語教育とコミュニケーション（法と人権）教育。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4年間で、市立全小学校（123+2分校）4～6年生で実施。</li> <li>・ その後、全学年での完全実施に踏みきる。</li> </ul>
音楽甲子園	芸術に触れる機会を身近に創出。 小・中・高生の音楽の殿堂として、音楽堂の再考を。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4年以内に、実現の具体策について決定。</li> <li>・ 再調査・検討に200万円／年間予算計上。</li> </ul>
基礎学力の向上と少人数授業	個に応じた多様な指導による授業の実現。 少人数授業実施に向け、教職員可配校の拡充。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4年間で、順次小学4年生まで拡大。目標は、小学6年生まで。60名×280万円＝1億6800万円要。</li> </ul>
アレルギー対応給食	「給食の時間は楽しい！好き！」食物アレルギー対応給食充実で、みんなが等しく楽しい給食になります。「食育」の推進。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年以内に新規「仙台市学校給食食物アレルギー対応検討委員会」を恒久設置。</li> <li>・ 学校栄養職員増（センター校充実から段階的に）</li> </ul>
どこでもパスポート拡充で、地域間交流	小学生・中学生対象。県内自治体全てと協定締結。対象施設の拡大。
男女共同参画	「仙台市男女共同参画推進条例」に基づく「男女共同参画せんだいプラン2004」を強力的に推進します。
	4年間で、審議会等の男女比率を50：50の最も自然な構成をめざします。市役所・区役所等の全ての会議に女性の参加を方針として打ち出します。
NPO支援	市民一人ひとりの自己実現の機会であり、お役所任せにしない市民主体のNPO活動を、さらにサポートします。
	「市民公益活動促進プラン21」の実行は、もとより、NPOの公に対するニーズを調査し、指定管理者制度による区毎サポートセンターを設置します。

## 子供の声があふれる 仙台（子育て支援・地域防犯・治安）

安心して産みたい、育てたい

政令市の中で、立ち遅れが大きく目立つ乳幼児医療助成の拡充	かけがえのない子供の健康と命。現行助成制度を見直し、対象年齢・所得制限・助成方法等、段階的に拡充をはかります。
	4年間で、通院、就学前までの拡大を目指します。現行制度で現物給付化（平成17年10月～）により、仙台市拠出額は、約12億円となり、同じく通院、就学前までの拡大で19億円要。
病中・病後児保育サポート	保育所からの急なお迎え要請の電話は、仕事と家庭の両立に、時として不安材料になります。医療機関とのネット通信で、病中・病後児保育サポートに着手します。
	1年以内にシステム構築し、2年目から実施。
子育て支援条例策定	「仙台すこやか子育てプラン」実施三段階目に入った今、新たに利用者のニーズに合わせたサービス提供体制の充実をはかる必要があります。
	1年以内に利用者のニーズ再調査を実施。2年目から条例策定着手。
地域防犯システムと学校の安全	明るい子供の声地域にあふれる——誰もが願う、地域の安全をつくり、守る体制を構築します。
	市が先頭に立ち、地域・学校・警察・NPO・ボランティアとの連携を強化し、市立全小・中学校の完全体制を確立します。

## 生活者・消費者の味方 仙台（健全な自由競争・市役所改革）

市内最大の事業主である仙台市行政に、消費者である市民の目線と声が活かされる大胆な改革を。

1%指定予算	限られた財政状況を踏まえ、政策の選択について、市民に公開し、優先順位を決定する仕組みを作ります。市民一人あたりの年間予算額は、およそ40万円、うち、1%の使い途を市民投票によって「要るモノ、要らないモノ」を明確にします。
	1年以内にシステム検討をし、後に中間報告公開とパブリックコメント募集。任期までに第一回を実施。
行財政改革特命本部設置	職員のヤル気尊重を第一に、最少の経費でスピーディに最大の効果を上げる経営確立のため、市長直属の時限的特命本部を設置します。税金を「他人のカネ」感覚で使わない、行政自らの仕事の効率化・合理化が求められています。職場の声を重視し、市民の声を含め外部からの参画による徹底した行財政の見直しをはかります。「小出しバラマキ」から「重点投資」へ改めます。

1). 外郭団体への 天下り制限	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渡り天下り（二回、三回）と複数同時天下り（二つ、三つ）の全面禁止。</li> <li>・ 前役職にとられない報酬の上限設定。</li> <li>・ 年限設定。</li> </ul>
2). 小さな市役所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術・現場部門での嘱託制度活用。</li> <li>・ 職員の横断的活用（季節による繁忙期に柔軟に対応）。</li> </ul>
3). 遊休資産の売却	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3ヶ年で30億円以上の売却。</li> </ul>
4). 行政組織統廃合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管理部門縮小による経費節減。</li> <li>・ 現場重視と市民サービスの向上を図り、区役所に総合案内課を新設します。</li> </ul>
5). 補助金支出適正化 6). 外郭団体整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 殆どどの外郭団体は、「補助金」「委託費」という名の市の税金で運営されており、設立は仙台市、管理者は、市の現役・退職幹部が就任しています。赤字は仙台市が補填するため、経営責任が曖昧で、団体の職員が意欲的に働ける環境とは言えません。</li> <li>・ 団体存続の必要性を精査し、指定管理者制度による、民間企業、社会福祉法人、NPOへの市場開放をさらに進め、地域住民の方々との管理の協働も選択肢として検討します。</li> </ul>
7). 聖域なき事業の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の再評価を行い、施策の優先順位を精査します。不要な事業は廃止を含めて大胆な見直しを行い、それにより浮いた財源を必要な施策に重点投資する（スクラップ&amp;ビルド）事によりバランスのとれた事業体系に改めます。</li> </ul>
ノー残業デーの拡大	主に一般事務部門を対象とし、時期的忙繁期実状に考慮しつつ、段階的にノー残業デーを拡大。
	4年で、「ノー残業デー」を週3日まで拡大。年間およそ10億円の経費節減。

## 働く 場所がある 仙台（経済）

市民が、働く「意欲」をもつための行政の役割は『誘導』。

「仙台資格取得支援制度」	2年以内に「仙台資格取得支援制度」策定。3年目以降実施します。 働く意欲を育てる制度。
仙台独自の「能力認定制度」創設	2年以内に、仙台独自の「能力認定制度」を構築し、3年目以降実施します。EX. 保育サポーター、各種スポーツ指導員 等
「動く市長」	「動く市長」として、杜の都仙台・学都仙台のPRにどこへでも行きます。「行ってみたい」「また行きたい」街ナンバーワンをめざします。
経済専門人材の登用と「一坪から始まる夢」若者の企業支援	産・学と仙台市の連携による、新商品・新産業創出に向けた専門的人材を登用します。自己実現、夢を描く若者の企業を積極支援します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・就任後、直ちに専門人材を登用。</li> <li>・起業家の皆さんに、情報と場の提供。</li> <li>・「仙台ベンチャー&amp;エンジェル（投資家）登録制度」を創設します。</li> </ul>
職業訓練と再教育	「やりたい事が見つからない」「仕事がない」から仕方なく、「ニート」の若者に、働く喜びと意義を学んでほしい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハローワーク、地域公共施設等を活用し、パソコン操作等職業訓練・再教育の場をつくります。</li> </ul>
地下鉄・東西線駅予定13地域街づくりプラン	平成13年策定の「東西線沿線まちづくり駅別行政素案」は、一部を除き、停滞の実状です。特別に奨励し、その実現を確かなものにするためにも、民間の投資意欲を呼びおこす誘導策が必要です。そのことにより、街は活性化し、働く場所が生まれ、都心部への人の流動化を促す相乗効果をもたらします。
中小企業・地域経済振興基本条例策定	賑わいと活力にあふれる仙台の創造に、中小企業振興は重要不可欠。社会経済構造の変革に対応した、産業集積と地域の健全な発展を促進し、調和のとれた地域社会の発展に寄与することを目的とした「中小企業・地域経済振興基本条例」を策定し、市の責務・中小企業、商店等の努力規程・市民の理解と協力・大企業等の努力などを盛り込み、市民あげて、仙台の底力を活かします。
若者の就労支援～市・区役所	若者へのワークシェアリングを市行政自らも推進します。社会実状を学ぶ機会に。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高卒就職待ちを対象に、市・区役所現場の補助業務。</li> <li>・嘱託で週何時間就労かを選択。</li> <li>・1年契約、最大2年、月額10万円程度の報酬。</li> </ul>

シニアにワークシェア（高齢者生きがい感アップ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外郭団体への天下り制限によって生じる、週2～3日の業務に公募制シニア（60才以上）雇用を実施します。</li> <li>・ 市施設への指定管理者制度導入が、今後増加する傾向の中で、一定のシニア雇用を条件づけています。</li> <li>・ 仙台版寺子屋～土曜活用によって、地域シルバー人材の雇用促進。</li> <li>・ シルバー人材センターの飛躍的拡充。</li> </ul>
市場の活気は仙台の元気。	<p>仙台中央卸売市場は、仙台の「台所」。市民の命と健康に直結しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「市場開放推進月間」を設け、もっと身近に、仙台の経済の源を知る・触れる機会として、市民キャンペーンを展開します。</li> <li>・ 「食の安心・安全」を担う市場環境整備を促進します。</li> </ul>
「土に帰ろう！」 仙台5300農家をバックアップ	<p>仙台の西には平野、東には山と森林。地域特性を活かした稲作・野菜・花き・畜産等、多様な農業経営が、新鮮な農産物や住みよい都市環境を提供しています。今後、都市益を活かした都市型農業の確立が望まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担い手不足、農業従事者の高齢化対策にさらに取り組みをすすめます。</li> <li>・ 意欲のある認定農業者への集中的な支援を講じます。</li> <li>・ 学校給食での地産地消を促進します。</li> <li>・ 防災・環境の視点から優良農地の保全を支援します。</li> </ul>

# 優しさ の手をさしのべよう 仙台（福祉・医療）

<p>救急医療 拡充 ～新・市立病院～</p>	<p>24時間体制の初期救急医療体制を整備する事は、市民にとって日々の安心につながります。特に高齢者、小児対応の救急医療整備を充実させる事は大切です。</p> <p>任期中に、「新・市立病院」のコンセプトを完成します。特に、小児救急センターの新設と宮城県こども病院との連携による「小児救急日本一」の都市を必ずつくります。</p>
<p>障害者自立 (就労) 支援</p>	<p>一人ひとりが、その人らしさを生かした自立した生活を送るための障害者就労支援の拡充をはかります。作業収入と年金で自立につながるようなサポートの充実。</p>
<p>障害者スポーツ・文化(面) への支援拡充</p>	<p>健康事業、生きがい事業に力を入れ、社会参加を拡げていきます。</p>
<p>介護保険利用者、施設、サービス事業者の支援</p>	<p>介護予防の新設等、大幅見直しとなった新たな介護保険制度が平成18年度からスタートします。制度の持続可能性が強調され、食事・ホテルコストの利用者負担、家事支援の利用制限、機能訓練等の介護予防や地域密着型サービス等の給付抑制や利用者負担増の内容です。介護予防の充実とともに、適性な利用者負担により、希望する保険サービスが受けられ、サービスを担う社会福祉法人や介護事業者が希望をもって良質なサービスが提供出来るよう支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就任後、3ヶ月以内に「福祉施策再評価委員会」を立ち上げます。</li> <li>・ 一年以内に、事業の効率化、介護予防や、利用者・施設・サービス事業を支援する施策をまとめ、平成18年度から実施します。</li> </ul>
<p>福祉施設整備 での民活推進</p>	<p>社会福祉法人が老人ホームや障害者福祉施設を整備する際に、国から交付されるいわゆる「三位一体」改革により補助金が減少されています。所得が少なく、保険制度でケア出来ない方を対象とする施設は社会福祉法人を支援・協働して整備をすすめる一方、介護保険関係においては、「民の良識と力」を信じ・生かして、支援策を充実させ、介護付き、有料老人ホームの整備をすすめながら、老人ホーム待機者の抜本的な解消を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就任後三ヶ月以内に立ち上げる「福祉施策再評価委員会」において、施設整備補助の効率化や福祉分野での民活策を検討し、17年中以内にとりまとめ、平成18年度から実施します。</li> </ul>
<p>「シルバーパスポート」の新設</p>	<p>シニア（60才以上）の方々の健康・生涯学習・生きがい事業の柱として、そして、地域経済の活性化にも資する、相互乗り入れによる地域間交流をすすめ、県内各自治体と協定を結び、互いに施設利用に減免措置を講じ、システム構築を果たします。（1年以内に）</p>

# 備えて安心 仙台（防災・危機管理）

市民総ぐるみ 防災運動の展開	<p>日常からの防災意識強化が大切。啓発・広報の充実とともに、市民・地域主体（共助）による防災及び災害時ネットワーク化を強力推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自主防災組織100%結成を目指します。（2年）</li> <li>・ 防災ワークショップ継続開催及び発表・PR機会創出。</li> <li>・ 防災マップ作りと広報・配布徹底</li> <li>・ 市域内・外災害ボランティアネットワーク化及び仙台市との連携構築化（1年以内）</li> </ul>
二次災害ゼロ と災害弱者救済	<p>火災・土砂崩壊・家屋倒壊・ケガ等の二次災害を防ぐための万全の備えが重要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「仙台市防災・危機対策連絡本部会議設置要綱」を見直し、庁内外の構成に改め、充実・徹底を図ります。（1年以内）</li> <li>・ 緊急時即応バイク隊を結成します。（1年以内）</li> <li>・ 電池式ラジオ独居老人宅 一家に一台完全配備。</li> </ul>
防災教育	<p>「防災」を身近に、日常の意識として持つ事が緊急時の冷静な判断につながります。宮城県沖地震を知らない世代に教育現場での防災教育を実施します。</p> <p>教育機関での防災訓練を地域開放及び地域一体型に改め、救命・救急デモ体験等加え実質効果的な訓練へ発展させます。</p>
危機管理	<p>あらゆる行政分野での危機に即応出来る庁内体制を構築します。危機は震災・自然災害のみならず、市民生活に関わる全般をさし、松森ゴミ焼却場問題、個人情報漏洩問題等も含まれるのです。副市長一名を特別危機管理官として、危機管理に即応できる対策本部を常設します。</p>

# 蛍 棲む 仙台（環境）

<p>蛍 棲む 仙台</p>	<p>キレイな水に生棲する蛍。蛍舞う仙台に向けた市民運動を展開します。市内河川浄化に取り組む団体やイベント等を強力にバックアップし、既存「蛍祭り」への市長参加とイベント化への拡大。</p>
<p>花と緑にあふれる 「杜の都仙台」</p>	<p>花は、人を和ませ、笑顔にさせ、愛情と思いやりの心をもたらします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緑被率アップ                      市街化区域内、全市内25.0%以上を達成します。（政令市中第2位からNo.1神戸を上回る事を目指します）</li> <li>・ 接道緑化促進                      「まちづくり条例」制定の中で、50%の義務化を図ります。（鎌倉50%、札幌40%）</li> <li>・ 仙台駅緑化                          「仙台の顔」「仙台の玄関」でもある仙台駅と周辺を花と緑にあふれた、憩いの空間として創出を図ります。</li> </ul>
<p>砂場の安心宣言</p>	<p>身体への影響が懸念される、公園の砂場を100%安心して遊べる宣言を出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4年で市内全公園の調査及び浄化処理100%実施。</li> </ul>
<p>ゴミ減量のための 4つの「R」 仙台</p> <p>Refuse (リフューズ) 余計なものは 断る</p> <p>Reduce (リデュース) ゴミの発生を 抑制</p> <p>Reuse (リユース) 再使用・再利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペットボトル リユース化へ                      4R実践都市・仙台を目指して、ペットボトルリユース化に向けた調査・研究を産・学・官及び海外との連携により推進。</li> <li>・ 学校給食 生ゴミ資源化へ                      環境教育の一環と、学校給食生ゴミの減量・リサイクル化として、拡大を図ります。児童・生徒が自ら加えられる作業については、積極参加を促し、子ども達が「食べ物」への「感謝・もったいない」気持ちを感じとれる機会につながります。</li> <li>・ 埋めない・燃やさない リサイクルな仙台を めざして                              「仙台市一般廃棄物処理基本計画」に基づく基本目標の進捗状況を中間総括し、市民に向け公表。埋める・燃やすを軽減するための新たな分別システムを構築します。平成20年度が目標達成年次となっている、市民一人あたり一日あたりのゴミ排出量削減目標、リサイクル率向上目標、焼却・直接埋め立て処分軽減目標への達成を前倒しで進めます。</li> </ul>

<p>Recycle (リサイクル) 資源として再 生活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リサイクル産業事業の積極導入</li> </ul> <p>産・学連携、協同開発による「良質な」民間リサイクル産業を、官は積極的に街づくりに生かすべきです。</p>
<p>「食の安全・安心」推進基本条例策定</p>	<p>食の安心・安心確保に向けた基本条例を策定します。徹底した情報開示と幅広い市民参画のもと、行政・事業主・市民の夫々の役割と責務を明確にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年目に条例策定準備委員会を庁内外の構成により立ち上げ、検討に入ります。</li> <li>・ 2年目に条例策定。</li> </ul>
<p>仙台環境Gメン</p>	<p>「クリーン仙台推進委員」のバージョンアップを図ります。環境Gメンとして仙台市、警察、関係団体との連携強化により、機能拡大させます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不法投棄実態調査、パトロール強化</li> </ul>

# 地下鉄・東西線 マジメに考えたい 私たちの街だから

基本姿勢	見直し	市民にとって、大きな大きな決断です。100年使う財産だから、「作ればいい」は、ダメ。前倒し2年で急ぐより、見直しに2年。
問題点	収支	事業者（仙台市交通局）負担1,140億円の返済は、運賃収入が主な財源。市民にとって使いやすい、利便性が高くなければ、安定した運賃収入も見込めません。JR仙石線との相互乗り入れ、相互乗り換え（の利便性）が確保されないままでは、収支見通しに甘さが残ります。
	経費節減	予定駅13に合わせての工区を見直すことにより、管理経費、機械に要する経費、人件費等大幅に節減できます。
	欒（けやき）	今から55年前、当時の岡崎市長はじめ市議の皆さんが、戦災復興の中、「杜の都」再興への願いを込めて植樹されたのが「青葉通り」の欒（けやき）です。今や〈シンボル〉から〈都市格〉を表す〈文化〉となった欒（けやき）の樹は、5～6本残せばよいという話しではありません。当初計画案の南町通り駅設置の再考をすべきと考えます。
	街づくり	13予定駅近辺の街づくりプラン 進んでいないというのが実状です。地元住民と協同による、地域個性を生かしたプランニングを着実に進めなければなりません。魅力ある街、賑わいのある街が働く場所（雇用）の創出につながります。
	景観	「広瀬川」の景観は、市民共有の宝もの。橋梁による景観ダメージを後世に残してよいものでしょうか。